

ピカイチ先生の  
生活経営セミナー

2015年07月  
企業から学ぶ現場の知恵  
(① パレートの法則)

ネクストライフ・コンサルティング

〒975-0038  
福島県南相馬市原町区日の出町167-3  
info@next-life-consult.com



ピカイチ先生

ピカイチ先生

検索

# パレートの法則とは？

## ● アリの実験

## ● 20対80の法則 = 経験則

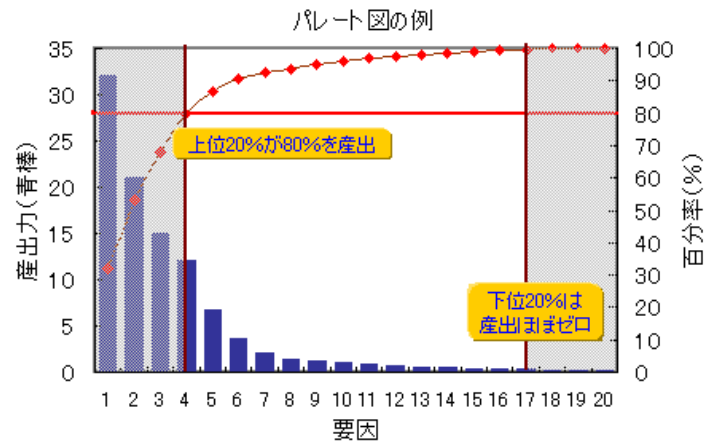
## ● 不均衡の法則

× : 全体が20%と80%に分かれるという法則

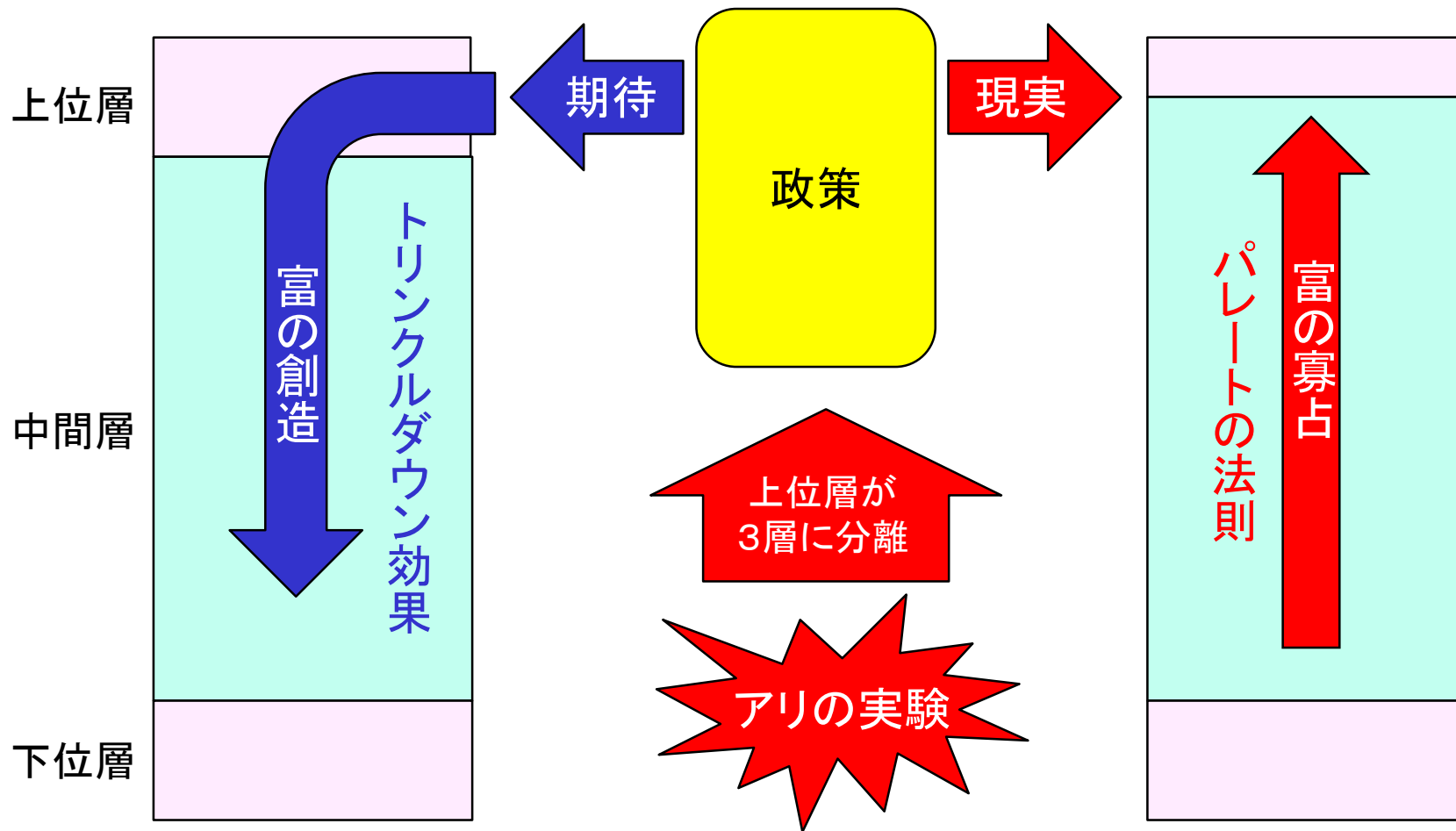
○ : 原因のわずかな部分が、結果の大部分をもたらす

## ● 企業の知恵

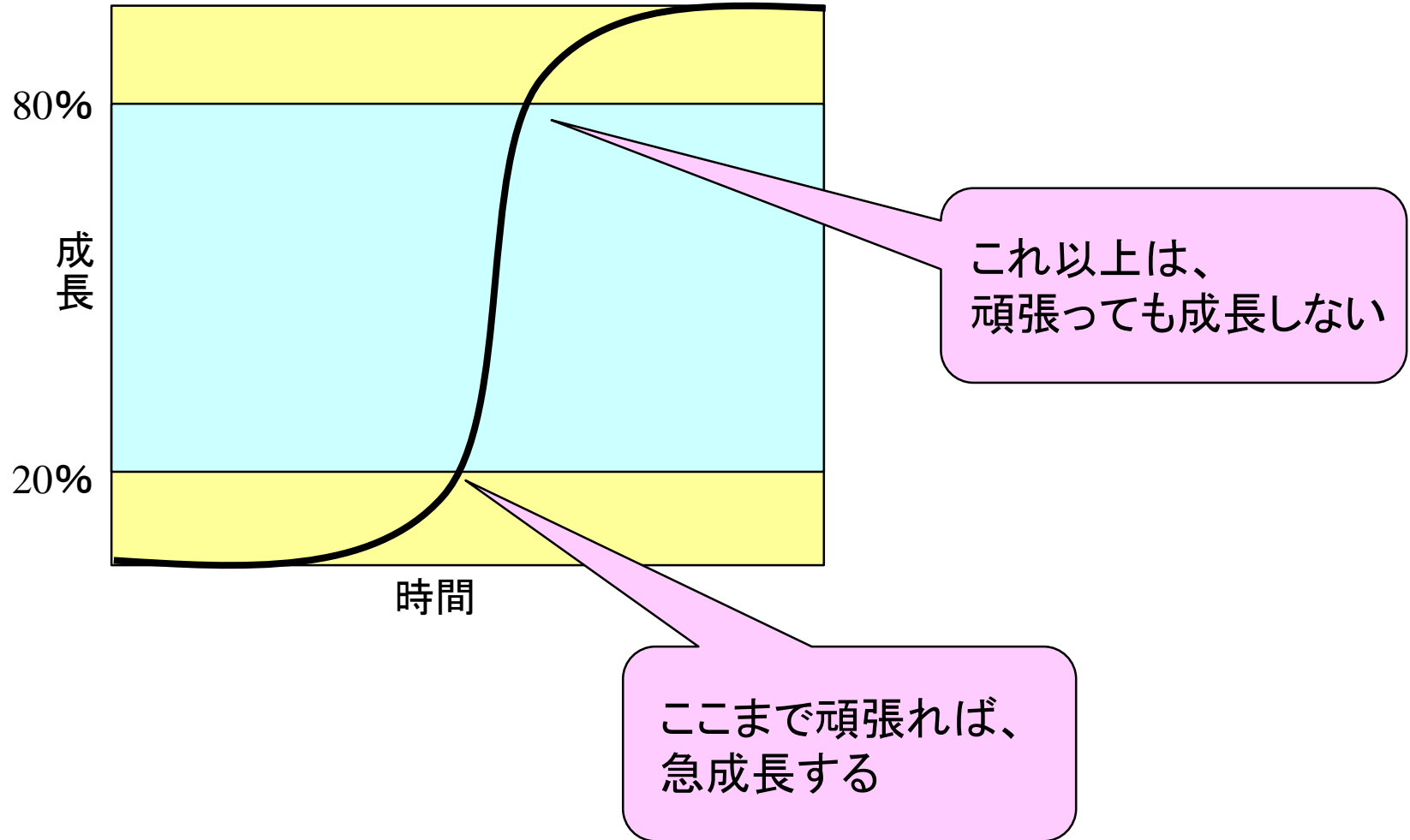
上位20%の原因を潰せば、問題の80%を解決する



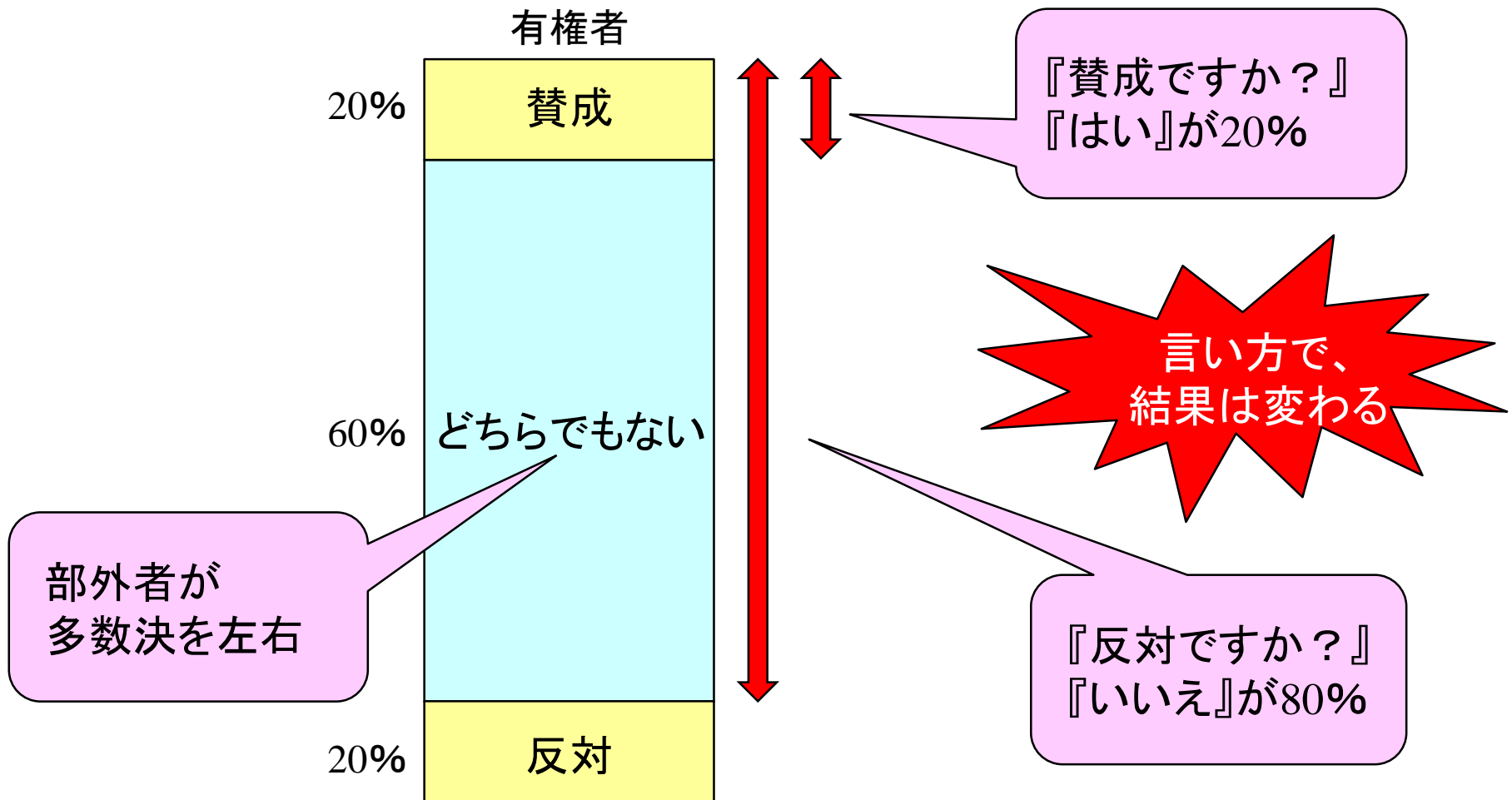
# トリクルダウン効果の嘘



# S字カーブの法則



# 民主主義（多数決）の限界



# パーキンソンの法則

パーキンソンは英国の歴史学者・政治学者で、官僚組織の肥大化を観察しながら、いくつもの法則を発見したんだ。

彼の第一法則は『仕事は、その遂行のために利用できる時間をすべて埋めるように拡大する』というものだ。

ボクなりに解釈すれば、時間が余っていれば人は仕事を作って時間を埋めようとする。そうすると今度は時間の余裕がなくなるから人を増やす。これが無限に繰り返されて、人は無限に増えていく、ということだ。

時間を埋めるために作った仕事は、会社にとって意味があるはずがない。放っておくと、会社はこんなムダな仕事をする人たちでいっぱいになり、ますます階層化が進む。

(中略)パーキンソンは第三法則で『拡大は複雑化を意味し、組織を腐敗させる』といている。行き着くところは倒産だ。

『不況時代を生き抜くためのビジネススキル』(林總著)より

# 企業が永続するために

【目標】永続する (going concern)

対策

変化に適応する

適応し過ぎない → 既得権としない  
適応し続ける → ムリをしない

対策

● 適当に (いい加減に・デタラメに)

- ① ある状態・目的・要求などにぴったり合っている
- ② その場を何とかつくりよう程度で

● PDCA (計画・実行・確認・見直し) サイクルを回し続ける

決断するために、  
(やらないことを決める)

恐怖に負けず  
決断に納得する  
(これでいいのだ!)

# 人生とは「決断」の連続だ！

現代の大企業の各部署の上層部におられる方は、組織の中において頑張って出世してきた世代だ。つまり、決断が苦手、というより経験をしてきていない。

よいとされている大学を出て、よいとされている会社に入り、特に辞めることもなく、働き続けたという、最もリスクを取らない人たちが経営の上層部にいる、という状況は、今の日本の企業の仕組みからすれば、そんな珍しくない、むしろ一般的であるはずだ。

そのタイミングで、経済のグローバゼーションがおき、変化が激しくなって、リスクを取った経験の乏しい人たちに様々な決断が求められるようになってきた。

タイミングとしては、あまりよくないだろう。日本全国どこを見ても、自力で決断するという経験が圧倒的に不足しているという現状が存在する。

『ナリワイをつくる』（伊藤洋志）より